

# 夢じゃーなる

Vol.

6

第2期阪神北地域ビジョン委員会だより

平成17年（2005年）3月

発行／阪神北地域ビジョン委員会

編集／阪神北地域ビジョン委員会広報部

<http://web.pref.hyogo.jp/hanshinkita/vision/v-index.html>



## 目次

・ビジョン夢会議	
伊丹夢会議	2
川西夢会議	3
宝塚夢会議	4
・ビジョン委員会 総会	3
・トップと語る（猪名川町長）	5
・わがまち猪名川	5
・各分野の活動紹介	6～9
・地域でこんな活動をしています	10
・春の花を愛でる会	10
・編集後記	10

阪神北地域ビジョン

「伊丹夢会議」開催される

去る一月十六日午後二時から伊丹市スワンホール（伊丹市労働福祉会館）にて、阪神北地域ビジョン伊丹夢会議「成熟社会における災害時の地域のネットワークを考える」が開催されました。

今回の夢会議は阪神・淡路大震災十周年を迎え、また当日夕刻から昆陽池公園で行われた「第十回阪神・淡路大震災犠牲者追悼の集い」にあわせて開かれました。

昨年の23号等の台風、新潟県中越地震、スマトラ島沖地震・津波による災害発生が続く中でのタイムリーな催しでしたが、参加者は三十三人にとどまりました。会議自体は、会場から活発に意見や提案が出されて、大いに盛り上がりました。

始めに阪神北泉民局東副局長の開会の挨拶、次に中瀬委員長の開催の趣旨説明、続いてビデオ「成熟社会の地域づくり」上映の後、プレゼンテーションへと進みました。

「プレゼンテーション」

伊藤順一ビジョン委員の司会で四人のプレゼンテーターが次の通り発表されました。

阪神北泉民局地域ビジョン担当課長 杉浦 聡さん

「兵庫県の震災十年の取り組み」

県としては、大震災時の教訓を活かして、平素の備えの充実、初動体制の整備、防災関係機関の連携強化、地域の防災力の向上等に取り組んできました。また自治体初の防災専門庁舎「兵庫県災害対策センター」と阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」を開設しました。

災害ボランティアコーディネーター 静岡協賛協会代表 笠原 英男さん

「東海地震における地域防災の現状」

静岡県は東海地震への備えもあつて防災先進県です。各地域に自主防災会が設置され、防災ボランティアのネットワークもできています。

新潟県中越地震の被災地に大学生をつれてボランティア活動をしたが、よく頑張り、若者を見直しました。

新潟県中越地震ボランティア 埼玉県在住 山本 博之さん

「新潟県中越地震に学ぶ」

新潟県中越地震の被災地には、全国各地から多数の災害ボランティアが駆けつけていました。現地について三日ほど作業の割り当てがなく、また夜間活動も行われていなかったなど、受け入れセンターの対応に問

題を感じました。（食料品等の未配布が報じられたように受け入れ側の地震災害時の未経験による対応の不慣れがあったものと思われれます）

但馬夢テーブル委員会委員長 日高町在住 中田裕美子さん

「台風23号による水害に学ぶ」

（被災状況をスライドにて紹介後）

私自身は自宅と経営する工場が同時に被災して他の支援はできませんでした。兵庫県と他の支援や災害ボランティアの活動は、先の大震災の経験がよく活かされていました。特に東大阪市の大量のゴミの引き取りは非常に助かりました。

ビジョン委員会として何かをしなければとの思いで、一月に夢会議「災害を乗り越え安全・安心な地域づくりを考える」を開催します。

四人の発表の終了後、熱気に満ちた討議がなされ「災害ボランティアの受け入れ組織の強化」などの意見が出されました。最後に中瀬委員長から大学生の被災マップ作りの例を挙げられ「それぞれに適したボランティア活動を」と結ばれ閉会となりました。

天災は防止できないが、被害は減らせます。一同、「あの日」を忘れることなく、発信し、提案し、行動することの大切さを心に刻んだひと

ときでした。

（広報部会 田中 實）



▲中瀬委員長の講評

表紙写真の説明

- 川西夢会議（左上）
- 早川先生身ぶり手ぶりの熱弁
- 宝塚夢会議（右上）
- 広報部会によるテーマ毎の発表
- 伊丹夢会議（右下）
- パネリストへの質問

阪神北地域ビジョン

「川西 夢会議」開催される

川西夢会議は、「みんながいきいきできる地域活動を考える」をテーマに、二月十三日午後一時より、川西市中央公民館において開催されました。高齢者を中心に会場いっぱい約三百人の出席があり、ひょうごさわやかステージは、「せせらぎ」（川西市）の合唱でオープンしました。

西浦道雄副委員長の開会の挨拶では、夢を実現できる街をめざして実践活動を展開中であり、皆さんに一層のご協力を賜りたい。共催市川西柴生進市長から、将来を見据えて少子化問題に腹を据えて考えていかねばならない。また、岡やすえ県議会議員からも来賓の挨拶がありました。

兵庫県制作のビデオ上映「成熟社会への地域づくり」では、これから到来する人口減少社会について、具体的なデータが紹介されました。

基調講演は、「わらじ医者」の愛称で親しまれている京都堀川病院を創設された早川一光先生が「いきいきとした年の取り方」と題して、身振り、手振り豊かに話されました。先生は、みんなと同じ視線で対話をしながら、老後を生きていくコツや



▲早川先生の講演に聴き入る

多くの患者や高齢者との付き合いいで得られた体験談を紹介されました。互いに支えあうことの大切さと、感動と勇気を与えていただいた講演でした。続いて、早川ゆき夫人から唱歌「ふるさと」に合わせて手話を教えていただき、全員で楽しみました。

次に、インストラクター山本幸美さんの指導で「簡単エアロビクス」により体をほぐしました。

パネルディスカッションでは、「高齢者もいきいきできる地域活動のあり方」について、コーディネーター金川幸司専門委員により、ビジョン委員三人を含む五人のパネリストから各グループの活動状況が紹介され

ました。堀信義委員は、高齢者問題だけでなく、男性の地域参加など。丸橋伸好委員は、多田グリーンハイツでのシニアクラブ組織化。河野智子さん（川西生活学校連合会会長）は、環境家計簿など主婦の問題点。小川紀之委員は、高齢者の技術、マインパワーを自治会活動にどのように生かすか。浜田剛さん（川西市生涯学習センター所長）は、生涯学習短期大学「レフネット」での活動を紹介。各活動団体では、資金面で苦労されているという話が出ました。

最後に、川西市長と阪神北県民局長より講評をいただきました。

柴生市長は、六十五歳以上の人口が二十パーセントを越してしまったが、地域の中で近所のみんなが互いに手を取り合ってコミュニティ活動をするのが大切である。表具局長は、ビジョン委員会もコミュニティの取り組みの延長上にあり、皆さんの協力が必要である。今回の夢会議は、ビジョン委員皆さんの手づくりの会議で有意義な一日となったと結ばれました。

（広報部会書記 岸本 英紀）

第3回 総会開催

第2期阪神北地域ビジョン委員会



▲総会風景

三月六日（日）、宝塚市立東公民館にて伊藤順一委員の司会で開催。中瀬委員長の開会挨拶で、この経験をこれからどう生かすか、これからは始まり、と激励されました。北野参事からは、ビジョン委員会の活動報告がありました。また、藤本専門委員は地域の子育てについて、これから何をどうすればよいかを議論して欲しかった。沖野専門委員は体験や実践をして、改善の基本データを把握できたと思う。解決代替案としてたたき台でも作ってほしかった。小西顧問は「新しい公」の仕組みの難しさは感じていた。OBになっても継続して活躍を期待する。表具局長からは委員や諸先生、事務局にもお礼の言葉があり、これからもより良い地域づくりに協力を希望し、地域が発展するように期待する、と話されました。その他、参加者から夢会議に地域市民が参加しやすい運営や仕組みを望むという意見がありました。

（広報部会副部長 大庭 弘之）

阪神北地域ビジョン

「宝塚夢会議」開催される

今期最終の夢会議が三月六日(日)、井戸知事出席のもと、宝塚市立東公民館にて開催されました。「これからの地域づくりをみんなで考えよう」をテーマに、約一五〇人の参加がありました。安積恵美子ビジョン委員の司会により、中瀬委員長が開会の挨拶。意義のある夢会議になるよう参加者に協力を呼びかけられました。「21世紀兵庫長期ビジョン」これまでの歩み」を上映。美しい兵庫を指すビジョンが良く理解できました。その後テーマごとに部屋を分けて、議論に移りました。

一、定年退職する男性をはじめ、幅広い方々の地域社会への参加方策を考える「ライフスタイルの変化」

第一分野は、知事も同席され活発に話し合われました。「ライフスタイルグループ」では、赤松代表から一期は試行錯誤をしたが、二期にはプレーパークを通して猪名川町や川西市の地域の人と協働活動ができた。また、OB活動も計画している。また、「世代間交流を考える会」からは、堀代表から高齢者問題は高齢者だけで考えるのではなく、若い人たちとも交流して考えていくべきで、「世代間交流のあり方を考える」フォーラムを三田市、伊丹市で開催した。「ドリーミィ・ユースグループ」からは安積代表が、

不登校などの子どもたちにもスポーツを通して居場所づくりを心掛け、地域のファミリースクールやスポーツ団体などと協働してイベントを行ったなど、と報告がありました。(発表者 上田 志津香)

二、みんなが健康で安心して暮らすことができ、みんなで子育てを支えられるようなコミュニティのつくり方を考える「コミュニティの活性化」

第二期ビジョン委員会の現在までの活動と今後の活動のあり方に焦点を絞り、コミュニティの活性化について討論しました。

高齢者の積極的参加を促すためには、どのような行動や活動を行えばいいか、実際の事例「悠遊シニア夢くらぶ」を徹底的に研究して実績としました。また、「ふれあいこんさあと」や「ふれあい健康ウォークラリー」などの実践活動を通じての成果を発表しました。今後の課題として、コミュニティバスや学童保育の延長、子どもの食育などの話題で盛り上がりました。(発表者 榮 泰隆)

三、地域の自然環境を生かす方策や、日々の生活の中でできる身近な環境問題への取り組み方などについて考える「環境問題への取り組み」

約二十人の参加者のもと、中瀬委員長のコーディネートで進められました。

まず、各グループの代表が活動報告をした後、フリートークに移り、今後の方向性として次の事柄が提起

されました。

グループ活動のあり方やグループを超え、地域(市町域)を超えた活動、環境をよくする活動を続けて、「美しい兵庫」をめざす。今後、建物の色や良好な住環境等景観の対象を広げて活動すべき、などの発言がありました。

最後に、環境問題への取り組みとして、持続可能な社会を実現してよりよい環境を次世代に引き継ぐために、自然との共生を図り、地道に省資源・省エネルギーに努めることの重要性が強調されました。(発表者 田中 實)

四、自然や、歴史、伝統、文化といった地域資源を生かし、交流を通じた地域経済の活性化方策を考える「地域経済の活性化」

できるだけ身近な取り組みをと、テーマは「おすすぬ散策ルート発掘」にしました。四市一町で散策ルートを探し、模造紙や映像等工夫を凝らして八ルートを発表。地域の賑わいは人との交流からと、実地に呼びかけての実践報告。

本日の会議では、宝塚市小浜自治会から「かきた・すころく作り」、同ゆずり葉コミュニティから「行者山マップ」の紹介がありました。同じ思いで行動している人の存在は心強く、もっと早く連携できていればと思います。

沖野専門委員は、マップを作ることで目的ではなく、そこに至るまでのプロセスの中で連帯と相互理解が

生まれることが大事。自分の地域に関心を持つことが必要不可欠と言われました。(発表者 野間元夫 佐子)

各テーマの発表後、井戸知事よりコメントをいただきました。

それぞれのテーマは、阪神北地域らしい特色があり、実践活動を通じてまとめようとの努力が感じられました。地域活動、参加、交流ともにそれぞれ自分の地域に関心を持ち、地域課題や活動内容を充分理解してこそ成果が得られると思います。楽しみを見つながら活動を続け、さまざまな世代の方で課題に取り組んでいただきたい。ビジョン委員二期目の人はOBとなるが、アドバイザー的役割で蒔いた活動の芽を育てていただきたいと締めくくられました。(広報部会 野間元夫 佐子)



▲分野別の討論

# トップと語る

猪名川町 真田 保男 町長



「トップと語る」も最終回を迎えました。一月二十七日、猪名川町長を訪ね、真田町長と宮脇修ビジョン委員会オブザーバーから歓迎の挨拶を受けました。上田志津香広報部会長の挨拶に続き、広報部会員と阪神北県民局地域ビジョン担当杉浦聡課長の自己紹介の後、中村良子部会員の司会で懇談に入りました。

( )内は質問者

## ◆猪名川町の施策および自然豊かな町の里山事業について

(早川安夫)

自然も人情味も豊かな、一声掛け合えるまちであると誇りに思っている。現在、清流猪名川を取り戻そうと、水に親しめる護岸に川の駅づくりを進めている。山に樹木を植え、河川の清掃を行い魚の住める川にしようとして、各家庭に補助金を出し雨水貯留タンクの設置を試みている。清流を取り戻そうと、職員も含めみんなが自ら活動できるように、知恵を絞っている。

## ◆地域の活性化について

(大庭弘之)

町の主な産業は農業であるが、兼業農家が主体である。楽しい農業と喜びを感じてもらえるように、道の駅を整備し、農産物を販売できるようにしている。

## ◆参画と協働による新しいまちづくりについて

(田中美晴)

町では人と人との関係が良いので、他市に先駆けて行っていることは、例えば「スポーツクラブ21」の発足、公園のリニューアル化、また、新しい試みとして、七つの小学校区に地域担当として九人の部長を配置し、地域と行政との調整と状況把握にあっている。

## ◆市町村を越えた広域事業について

(田中 實)

人口が三万人になり、猪名川水系三市一



▲真田町長と語り合う

町は車で三十分以内に移動できる範囲であり、職員の相互交流を実施している。広域連携として小児科病院の連携、図書相互貸出し、共同利用を実施している。

## ◆五十周年事業の計画について

(岸本英紀)

今年の四月十日、五十周年を迎えるに当たり、人々に感謝の意を表したい。八月には、全国の川の名を冠した市町村を招いて、「全国川サミット」を開催する。シンボルマークとキャッチフレーズを募集したところ、六百と千百の応募があった。NHKの「のど自慢大会」や「ラジオ体操」も誘致している。

## ◆来年(平成十八年)の団体について

(高濱弘子)

レスリングを「イナホール」で開催する。国体市町推進委員会を中心に準備を進めている。今年はプレイベントとして全国学生選手権が開催される。地元から県を代表する選手も出ており、学校でもレスリングの人氣が高まっている。

## ◆農業対策について

(野間貞子)

楽しんでできる農業をめざしている猪名川町は耕地面積も生産量も少ないが、手づくりの産物を道の駅で販売できるようにしたい。

ここには年間五十万人の来客があり、これをいかに農業生産と結びつけるかが課題である。年間を通じて農産物を販売できるように、周年出荷が必要と考える。

## ◆若者が住み続けられるまちの対策について

(榮 泰隆)

まちづくりは立派な人を育てることである。価値観の差が大きい現在において、義務教育特区を設けられないかを検討したい。若者に対して、①自然を大切にまもってほしい②田舎を誇りに思ってもらいたい③ほっとできるまちでありたいと願っている。

最後に、早川広報部会副会長より、猪名川や里山の保全と町の力強い発展を願ってお礼の挨拶がありました。

(広報部会書記 岸本 英紀)

## わがまち猪名川

江戸時代幕府直轄領であった猪名川町は、穏やかな人情味を秘めた土地柄であると思えます。しかし、その中において歴史の流れのなかを通過してきた証は、町内各地に深く刻み込まれています。

古くは清和天皇をいだく多田源氏の御家人ゆかりの家があり、明智光秀の娘・佐保姫を守りおちのびた末裔が暮らし、豊臣秀吉の直轄銀山として栄え、後にその財宝を埋蔵したといわれる多田銀山はあまりに



▲大野山展望台

も有名。また、肝川にある室町時代建立の国指定重要文化財「戸隠神社」、江戸時代の木喰上人が残した大井「東光寺」にある微笑仏など……、由緒をたどれば歴史ストーリーが随所に存在する日本史の隠れ宝庫のような町です。

しかし、今、猪名川町といえば、緑豊かなベッドタウンとして脚光を浴びており、近代的な新しい町、安らぎと憩いのある生活の場として、知られています。昭和五十三年に能勢電鉄が日生中央まで延伸し、多くの丘陵地帯が明るい街並みに変わりました。人口も昨年には三万人を超え、大型ショッピングセンターの開業が、人々の足を運ばせ、古い伝統の生活活圏に新風が吹き、カルチャーミックスによる、活力のある町が醸成されてきました。

近代化と自然を生かした街づくり、北部柏原地区の大野山(標高七五三メートル)には町立天文台があり夜空の星ロマンを育む最高の場所です。また、美しい猪名川の清流を利用した北田原鱒釣り場は川遊びを堪能できます。炭焼き体験ができ、昆虫も豊富な栃原「めぐみの森」は家族の絆を強くします。そして猪名川町の四季折々の特産品が出品を競う万善「道の駅」、なかでも猪名川産の手打ち蕎麦は絶品。

この美しい調和が歴史を今に生かし、未来を望む町になっています。皆さん一度訪ねてみてください。

(第三分野水問題グループ 大下 章)

第一分野

「他の県民局と  
同一テーマで交流」

一月二十六日、私たちグループでは、阪神北県民局において、阪神南地域ビジョン委員会「いきいきフォーラム・シニア21」と交流会を持ちました。

同グループは、高齢者社会活動促進プログラムを基に活動し、どんなでもできるダンス体操形式の「長生き音頭」等を地域で普及されておられます。

今後、「いきいきフォーラム・シニア21」グループは、レパトリの開発により活動サポーターを充実させ、各方面、男女全年齢参加型のイベント等の対応を考慮しつつ継続されるそうです。

私たちグループも「生きる力を共有すること」を全面に出してフォーラムを重ねており、手段こそ違っておりませんが、高齢化社会に向けて同じ問題点を追求していると共感していました。その一つの大きな課題は、若い方との交流の場が少なく個々のニーズがつかめない。

近き将来の社会環境の変化に対し今から「Aging Is Golden（齢を重ねることは素晴らしき）」を意識し夢あるビジョンの実現に一歩近づいた交流会でした。



（世代間交流を考える会

前田 美智子）

▲長生き音頭の指導を受ける

「世代間交流のあり方を考える」  
フォーラム伊丹

私たちグループは、三月二十日、伊丹市立産業・情報センターで標記フォーラムを開催しました。

始めに、北野阪神北県民局企画調整担当参事より、ビジョンのこれまでの歩みを紹介したビデオを使って本日のフォーラム指針を述べられました。次いで二つのグループに分かれ、共通テーマ「世代間交流を考える」と題して各地域の活動の取り組みや、世代間の課題など討議し、世代間交流を図るには積極的に出ていくことが大切、まつりなどを通して

交流が図れる、など活発な意見がでて盛り上がりました。休憩時間には阪神南地域ビジョン委員会のシニアグループより「長生き音頭」を披露していただいで好評でした。終りに、藤本専門委員より総括コメントとして、テーマ・シナリオを持ったイベントなど積極的な活動の展開が必要、との今後の活動の方向性の指針となりました。



（世代間交流を考える会代表

堀 信義）

▲伊丹でのフォーラム

「スポーツと文化の祭典」  
に参画

二月十二日、阪神・淡路大震災復興十年支援イベント「スポーツと文化の祭典」（主催兵庫県テニス協会など）



（ドリーミィ・ユースグループ

岸本 英紀）

▲バスケットボールクリニック

の依頼を受け後援団体として参画。宝塚市スポーツセンターでは行われたイベントの中で私たちのグループはバスケットボールクリニックを開催。アメリカのプロバスケットチームで活躍している森下雄一郎選手やフラッシュユースバスケットボールクラブ（芦屋市）、ファミリースクール・ヴェンテージ（宝塚市）の協力があり、当日は六歳から高校生まで約八十人、本物を見たいと見学の青少年や父兄も含め約一五〇人の参加がありました。

子どもたちは、プロ選手による基本的な指導と、エキシビジョンに時間の経過を忘れて熱心に取り組んでいました。

今後、このような企画が継続的に開催できることを関係者と考えていかなければならないと思います。

第二分野

「元気で長生きできる料理教室」

(健康で安心して暮らせるコミュニティづくりグループ)

第三回 宝塚

伊丹、三田に続き、宝塚、川西に於いて主題のテーマに添い地場産、旬の野菜を摂取した美味しい料理を皆さんとつくりました。



▲宝塚での料理教室

平成十六年十一月二十九日、宝塚市立中央公民館に於いて、ビジョン委員九人、各市町より

十六人、宝塚いずみ会の北山会長ら五人が集まり、三十人で和やかに料理教室を開きました。

献立

- ・ごま、スキムミルク入りご飯
- ・鮭と六種の野菜のホイル蒸し
- ・伊丹JA直送自然薯の酢の物
- ・牛肉と五種の野菜のみそ汁
- ・デザート 柿ヨーグルト

女性はベテランぞろい、男性も経験者が多く、手際よくスムーズに運びました。予定より早く正午前に会食が始まり、出来栄はよかったと楽しい会話がはずみました。ホイル蒸しのかぼちゃのゆで方が少ない組とゆで過ぎた組とがあった位で、皆さん満足の様子でした。

次回二月の川西での再開を期して、またお会いしよう…と盛り上がりました。

世話人として反省したことは、チラシとFM宝塚で放送をしたが、効果が少なかった。PRについて再考したいとのことでした。

(副代表 河本 和雄)

第四回 川西

二月九日、最後の教室となりましたが、川西市中央公民館ではひと味ちがう料理を楽しく作りました

・シーフードパスタ

地中海産本鮭まぐろの落とし身、イカ、たっぷりの野菜と海藻をとり入れ、酢味噌ドレッシングで仕上げた。

・きのこのスープ

えのき、しめじ、エリンギ、猪名川町産の肉厚の椎茸をたっぷり入れ、鮭の骨よりスープを取り、味噌ウチイを加え、溶き卵で仕上げました。

・ポテトサラダ

ジャガ芋を千切りにしさつとゆで、人参、玉葱、ピーマンに鮭の骨についているコラーゲン質の膜をスプーンでこそげ取ったものを合わせ、和風ドレッシングで仕上げました。

・デザート 西米露シイミル

タピオカ入りココナッツミルク。

以上四品でしたが、鮭の落と

し身を余すところなく利用した料理でした。

食後、食の問題に力を入れておられる岡やすえ県議会議員より、食育の大切さ、食にまつわるさまざまな問題を判りやすくお話しいただき、充実した半日の料理教室としてまとめることができました。

(代表 青樹 英夫)



▲川西での料理教室

第三分野

「ゴミ減量と地球温暖化防止に向けて」



▲エコバスで学習中

私たちのグループではこの二年間、表題のテーマに取り組み、提言をまとめました。その骨子を報告します。地域の人々に共鳴していただき、また今後の活動に資することを願っています。

一、循環型社会を目指して

二十世紀には、大量生産→大量物流  
↓大量消費→大量廃棄するワンウェイ型経済社会が進み、人類はかつてない物の豊かさと便利さを手に入れました。反面ゴミの増大、公害の発生、自然・生態系の破壊、化学物質による汚染、地球温暖化現象などの環境問題が生じております。私たちは次の世代に持続可能で自然と共生できる環境を引き渡すために、これまでの生活・事業スタイルを転換して、省資源・省エネルギーに努め、「環境への負荷が少ない循環型社会」を目指さなければなりません。

二、家庭系ゴミの減量に向けて

ワンウェイ型経済社会は多量の生活ゴミを発生させ、処理するための焼却設備の設置や埋立地の確保が困難になっています。家庭系ゴミの処分は市町村が行っています。地方自治体では増大するゴミ対策としてゴミの資源化に取り組んできました。法律でも、廃棄物対策は発生抑制→再利用→再処理→熱回収→適正処理で定めています。ゴミの減量化を図るには、住民・事業者・行政の協働連携と意識改革が必要です。家庭系ゴミ回収の有料化や容器包装廃棄物の生産者責任も視野に入れていく必要があります。

三、買い物袋持参運動

全国で使用されているレジ袋は年間二十四万トンに達し、多量の石油を消費しています。レジ袋を減らせば、ゴミ減量と省資源・省エネルギーに結びつきます。消費者協会では「買い物袋持参運動」を展開し、全国の主要スーパーでは毎月五日を「ノーレジ袋の日」と定めています。今日からマイバックを。

四、地球温暖化防止に向けて

京都議定書が二月十六日に発効しました。全国民が一体となって化石燃料の消費を減らし、温室効果ガスの削減目標（六％）の達成に努めなければなりません。また、家庭で二酸化炭素排出量をチェックするために多くの人に「環境家計簿」を利用してほしいと願っています。

〔ゴミ問題（地球温暖化も含む）グループ 田中 實〕

第四分野

おすすめ散策ルートⅣ 三田編

今回は、三田農業まつりを紹介します。それは、昨年十一月十三日秋晴れの中、三田ウッディタウンの広場に賑やかに開催されました。三田近郊の農家の方々が丹精込めて作った農作物を家族総出で販売。太い大根、ゴボウ、サツマイモ、巻きの良い白菜など主婦憧れの品ばかりでした。



▲牛のセリ市

それには、三田といえは、三田牛でしょう。販売もこの農業祭では、三才牛のセリ市が開かれ、今時珍しい手セリを一般でも見学できます。今年三十頭あまりの牛が一頭八十万円から始まり最高は四〇〇万円でセリ落ちました。興奮いっぱいひとときでした。

三田肉流通振興協議会代表の小田昌見さんによると「三田牛の価値が高いのは、飼育管理が徹底していること。消費地と産地が距離的に近いので、輸送時間が短く経費面で有利なだけでなく、牛のストレスも軽減できる。今後の悩みは、住宅土地開発が進み、広い放牧地確保が難しい。穀類やガソリンの値上げと、元子供給の後継者不足が深刻」とのお話でした。三田地方で大切に肥育された和牛の伝統を守り続けていただきたいと痛感しました。

〔地域経済の活性化グループ 野間元夫(佐子)〕

おすすめ散策ルートⅤ 伊丹編

伊丹には歴史遺産が多く、見所がたくさんあります。昨年十二月二日、その中で、最もポピュラーなコースとして、荒牧バラ公園・昆陽寺・昆陽池・昆虫館を散策しました。師走とはいえ好天に恵まれ、一般参加者とともに和やかな気分で散策しました。

荒牧バラ公園は、秋バラの見頃（十月～十一月）を過ぎていましたが、まだまだ美しいバラが甘い香りを漂わせていました。ここは、珍種も多くバラ愛好家おすすめの所です。

昆陽寺は国道171号線沿いにあります。行基菩薩によって建てられたお堂や山門などの建築美や社会事業に貢献された遺徳を偲びつつ見学しました。昆陽池には、無数の冬の渡り鳥が生息し、家族連れの人で賑わっています。季節毎に花が多く、桜やツツジが有名です。

昆陽池公園の北東の角に昆虫館があり、世界各地の昆虫標本を集めています。また、沖縄の気温に設定された温室では、常時羽化された蝶が、亜熱帯の花木をくぐって舞っています。

〔同グループ代表 大西 和子〕



▲香り高いバラ園



第三分野

感動をよんだ子どもたちの発表  
あたたかく手をさしのべた大人とがっちり!!!  
「子どもと地域の環境会議」 成功裏に閉幕



▲劇「海を返して」

子どもたちは、自然の不思議さ、神秘さに最も敏感な存在です。”環境っ子”です。「子どもと地域の環境会議」は、ビジョン委員会、阪神北県民局主催で、一年余の準備を経て、十二月四日、いたみホールで幕を開けました。小学校の発表の第一部では、伊丹有岡小学校は、有っ子池（学校ビオトープ）となかよし”のテーマで、見つけっこカード”による生きものの観察の発表。宝塚末広小学校は、すぐそばの武庫川でカモ、サギ、そして水生生物について勉強しました。川西緑台小学校は環境を守る調理実習を、ふだんのくらしが大切と取り組みました。自然や暮らしの中から身近な問題として、自分等でできることを取りあげた発表でした。中川コメンテーターは学外からどんな人に来てもらい環境の話をしていた

だくかを尋ねられ、ゲストティーチャーについて意見交換がなされました。

第二部に入り、伊丹池尻小学校四年生三十七人による朗読劇「海を返して」。

児童たちがバンダナ、鳴子、リコーダーを手に手に、干渴のカニ、貝、カモメなど生きものたちの痛み、苦しさを、声を張り上げての雄叫びと歌と踊りを熱演。会場は割れんばかりの大音響。皆、固唾をのみ、涙、涙の感動でした。

そのあと、熱気がまだ残る第三部、子どもたちに手をさしのべる地域の大人の物語でした。

「くわがたランド」に里山パークを目指す平田さん、島仕事に格闘する子どもたちの様子を熱く話され、伊丹の市民グループ、環境ネットワークの森さんは「ジャンボエコカルタ取り」のイベントを立ちあげ、現場からみた環境教育のポイントを訴えられました。

最近に発足した「宝塚子どもナチュラリストクラブ」の花崎さんは自然に恵まれた西谷で、大人の団体と手を組んで、子どもたちの自然体験活動を組まれています。

「あーすいたみ」は、学校外活動

学校外活動



▲児童の体験発表

促進事業として、”土って面白い”と、ピーナッツの種まきから収穫まで、いっしょになって働くという活動。代表の村上さんは、大人もいい勉強になりましたとしみじみ言われました。

中瀬コメンテーターは「地域からは学校に何を求めますか」と単刀直入に聞かれ、先生方との対話を、もって大人を使っ

若い世代の視点も!!

大学生との懇談会をもちました

昨年十二月十六日、夕方近く、関西学院大学三田キャンパスで、総合政策学部、久野教授、ゼミの十八名の学生と阪神北県民局（北野、小堀町参事、杉浦課長）ビジョン委員（金澤、西村、早川）とが、”これからの地域づくりを考える”のテーマの下に、懇談する機会を得ました。

まず、杉浦課長から県民局のしごと、人口減少社会の到来に係る二十一世紀長期ビジョンのビデオ放映、”新しい公”の考え方などについて説明。続いて環境の小堀参事から不法投棄問題、子どもと地域の環境会議など、環境対策事業について報告されました。あと、学生の質問を受ける形で意見交換が行われました。

率直な質問が続出しました。子どもと地域の環境会議について、参加者、開催頻度、そしてもっと積極的に取り組んでほしい。環境についての体験認識から、行動へ移すことに懸念が示されました。また小学生の頃に関心があつても、中学、高校、大学へと、上に進むにつれ稀薄になってゆくが、学生部

ついて勉強してほしいなどと、意見が出されました。こうして、子どもたちの真剣な取り組みと大人たちの暖かい協力とが、強く結ばれたといえる会議が大きな感動と希望を残して閉幕しました。成功でした。この企画のさらなる継続と発展が期待されました。

（水問題グループ 早川 安夫）

隊などをつくる対策を考えることが必要。環境講座（活動家養成）への参加の仕方、公募のあり方についての質問もありました。

なお、三田市のまちづくりについての意見交換があり、いろいろと問題提起されました。最後に教授から、行政の協働と参画のよびかけに対し、なかなか県民が動かないという現実。行政はもつと十年、二十年先を見た計画を立てるべきだ。それから、君等のお父さんはわかりにくいかもしれないが、お爺さんの技術や経験から環境問題でも学ぶべきことがあるんじゃないか、など、厳しい意見を述べられました。ビジョン委員も意見交換に加わり、環境家計簿の提案が出されたりしました。なかなか学生の質問が止まず、次の講義の時間もあるとかで約一時間半の懇談会も終わりました。熱っぽい教室でした。若い人たちの情熱というか、フレキシブルな感性に、頼もしい手ごたえを感じながら、暗やみのキャンパスをあとにしました。

（水問題グループ 早川 安夫）

# 地域でこんな活動をしています

続報

## 「高齢者の社会参加活動」への取り組み

「老人会の活性化」と題し、川西市多田グリーンハイツ内の活動状況を夢じゃーなる第二号で掲載しましたが、その後、予定通り四月に新しく「悠遊シニア夢くらぶ」を設立。初年度は会員数四三〇人、



▲悠々シニア夢くらぶ歩こう会

十種類のクラブが誕生しました。老人クラブも時代の流れに取り残されないよう、社会参加活動は次のように積極的に取り組んでお

- ・地域内草取り清掃活動に参加
- ・秋・春のバスツアーに参加
- ・スポーツクラブ21に加入
- ・地域コミュニティ
- ・各種行事に参加
- ・自治会主催各種行事に参加
- ・各小学校行事に出店
- ・福祉委員会行事に参加
- ・市老連主催行事に参加
- ・災害救済事業として寄託
- ・その他

第二分野 丸橋 伸好

(悠々シニア夢くらぶ)

## 食の安全と安心の活動

消費者は健康に対する意識の高まりで、食の安全安心についての関心はますます大きくなっています。

食を取り巻く環境は製造・加工・保存技術の発展や、流通の広域化や食の国際化による輸入食品の増加など大きく変化し、これに伴って消費者の食品に対するニーズも多様化してきました。

食品の供給者として三田食品衛生協会の会員は、食品に起因する全ての危害を排除するとともに、質の高い食品を提供し、豊かな食文化の維持向上に努めています。

私も牧場を経営し、県内外の牧場経営者と畜産研究会の会を結成しています。子牛の履歴証明、移動肥育証明に飼料の分析証明など、管理と自主検査体制を強化し整備いたしました。

私どもの畜産研究会グループから出荷される牛肉と安全証明書には、注文が殺到し価格も高く取り引きされました。国内でBSEに対していち早く食品衛生管理の徹底に取り組んだことが、高く評価され、大きな成果を得ることができ、地域経済の活性化につながったと思っています。

第四分野 廣岡 庸禎

(三田食品衛生協会指導員)

## 春の花を愛でる会

秋の開催予定が延びた「花を愛でる会」が三月二十一日に加西の県立フラワーセンターで開かれました。あいにくの雨模様でしたが、阪神北県民局からは、二台のバスに分乗して、元気に出発しました。ゲートでは、井戸知事の出迎えを受け、県下の他地域のビジョン委員ともども入場しました。施設内には、各地域での活動を紹介するパネル展示、園芸教室、お茶席等があり、多種多様な蘭やブーゲンビリアも歓迎してくれているようでした。早速、色鮮やかで大輪のペゴニアの前で記念写真を撮りました。

また、可愛かったのが肌寒い小雨降るなか、一生懸命歌ってくれた保育園児の歌声でした。勇壮な地元加西市の伝

統芸能「あばれ太鼓」の響きとともに、忘れられない思い出です。

楽しい昼食は、地元の食材を使ったお弁当と三田の母子茶をいただきました。香住在住のビジョン委員ご夫妻と同席になり、蟹や宝塚の社交ダンスの話で盛り上がり、再会を約束しました。兵庫県の広さと人の暖かさを感じたひとときでした。

早い時間から帰るのが早きながら帰路につきました。お土産にいただいたサイネリアは今でも食卓を飾っています。



▲ペゴニアと美を競う

(広報部会 野間元夫佐子)

## 編集後記

第二期のビジョン委員会の任期が三月に終わりました。広報部会は「夢じゃーなる」第六号と、ビジョン委員会報告書仕上げが最後の仕事となりました。

広報部会の面々は、「出会い」を楽しみ、「仕事」を楽しみ、「今後とも仲間」を約束しています。

思えば、機関誌の名前も中村良子発案が大賛成のもとに実現したし、各号の各ページが私どもの思いのこかったものになりました。延々五時間にも及ぶ編集会議や校正は、誰も厭な顔をせず、楽しんでのぎを削っていました。

もう、誰もがどこかで機関誌が作れる「力」を持つこともできたと思います。

何よりも、ビジョン委員活動の全貌をいち早くつかめたこと、機関誌を作る過程で仲間ができたことが大きな収穫だったと思います。

私どもの発想や発案を認め、大切に育ててくださった前ビジョン担当西谷課長、そして発展をさせてくださった杉浦課長には、感謝するとともに、よき仲間だとも思っています。

- 広報部会長 上田志津香
- 副部会長 榮泰隆 早川安夫 大庭弘之
- 書記 岸本英紀
- 部会員 田中美晴 野間貞子
- 高濱弘子 中村良子 田中實
- 野間元夫佐子

## お問い合わせ先

### 阪神北県民局地域ビジョン担当

宝塚市旭町二丁目四番十五号

電話 ○七九七ー八三ー三二一九